

ごみの減量化等に関する 市民アンケート調査結果

1. 調査結果概要

市民のごみ排出状況等を把握し、ごみの排出抑制、分別・リサイクルの推進、ごみの減量化を図るために、アンケート調査を実施しました。

(1) 配信対象

市公式LINE登録者のうち、市内在住であり、受け取りたい情報の分野として「くらし・手続き」「市政情報」に登録している4,863名

(2) 調査期間

令和8年3月31日～令和8年4月15日

(3) 回答数

729件(15.0%)

2. 市民アンケート調査結果

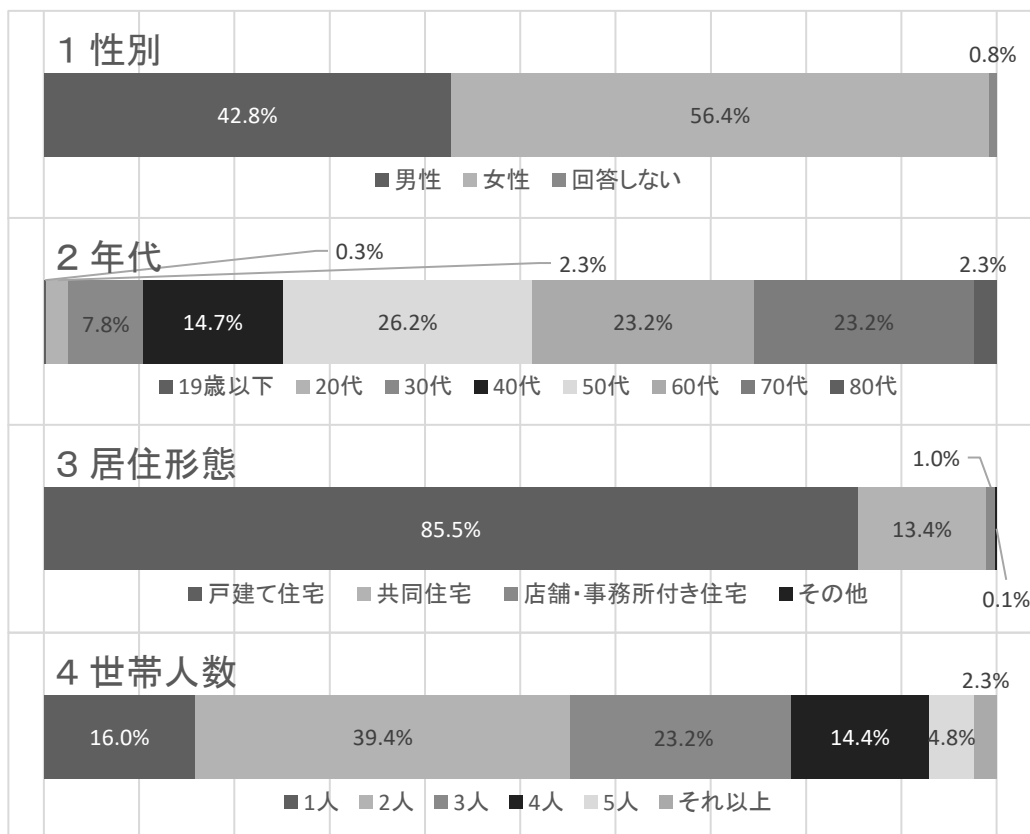
※小数点以下を四捨五入しているため、必ずしも合計が100%にはならない。

(1) 基本情報

【性別・年代・居住形態・世帯人数】

回答者の性別比率は、女性が約6割、男性が約4割でした。年代については40代以上が全体の約9割を占めており、若年層の回答率が低い傾向にあります。

居住形態については戸建てもしくは共同住宅が大半を占めています。世帯人数は2人暮らしが最も多く、次いで3人、1人、4人、5人の順という結果になりました。

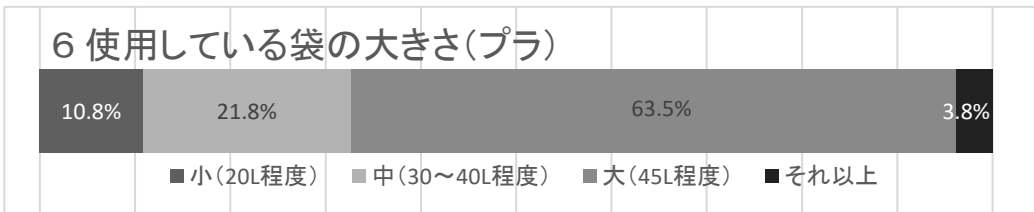
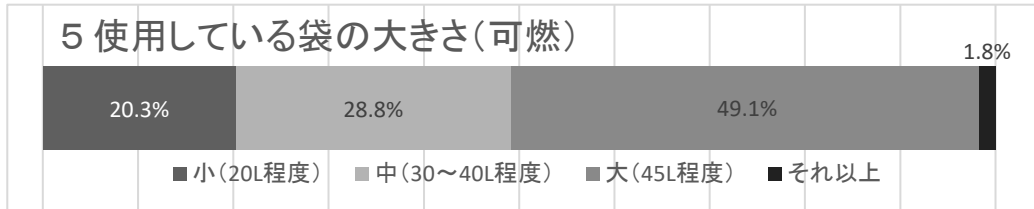


(2) 袋の大きさ

【可燃ごみ・プラスチック類】

可燃ごみの袋の大きさについては、約2割が小(20L程度)、約3割が中(30～40L程度)、約5割が大もしくは大以上(45L程度もしくはそれ以上)を使用しています。

プラスチック類は約7割が大もしくは大以上の袋を使用しており、可燃ごみと比べて大きい袋を使っている割合が高いことがわかります。

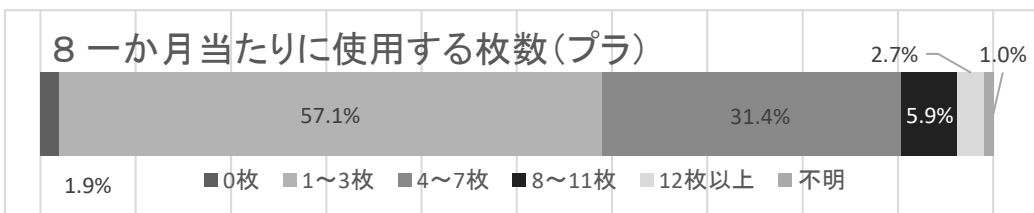
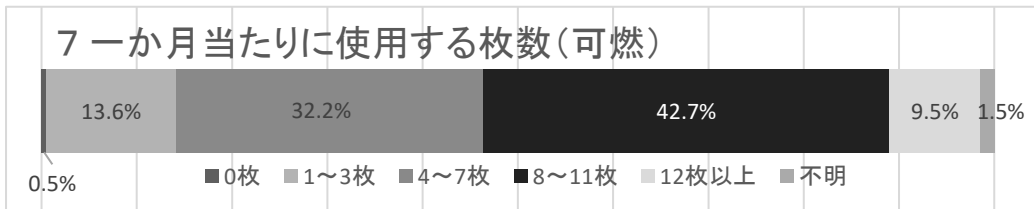


(3) 袋の枚数

【可燃ごみ・プラスチック類】

可燃ごみの袋の枚数については、8～11枚が約4割、4～7枚が約3割であり、この2つの選択肢が全体の7割以上を占めています。

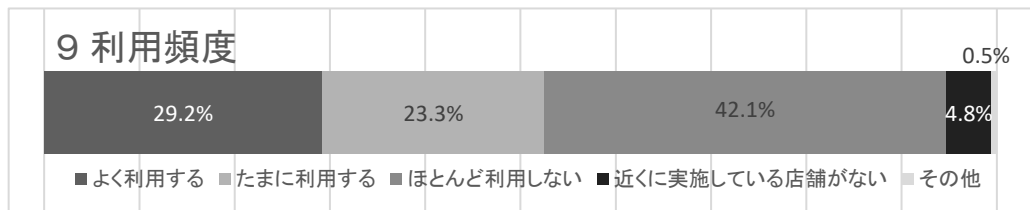
プラスチック類は1～3枚が約6割、次いで多い選択肢が4～7枚で約3割のため、可燃ごみよりも一か月に使用する袋の枚数は少ないことがわかります。



(4) 店頭回収

【利用頻度】

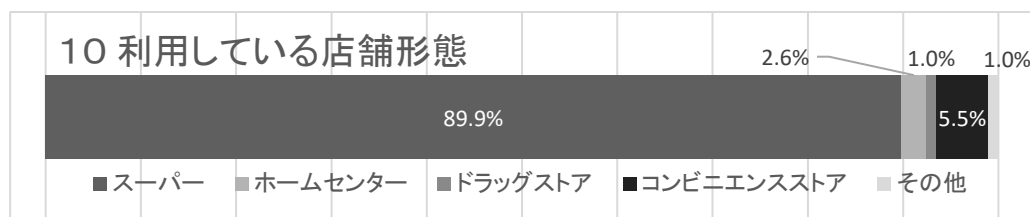
店頭回収をよく利用する、たまに利用すると回答した割合は約5割となり、回答者の約半数が店頭回収を利用していることがわかります。



【利用している店舗の形態】

店頭回収の利用者のうち、約9割がスーパーでの店頭回収を利用していると回答しました。

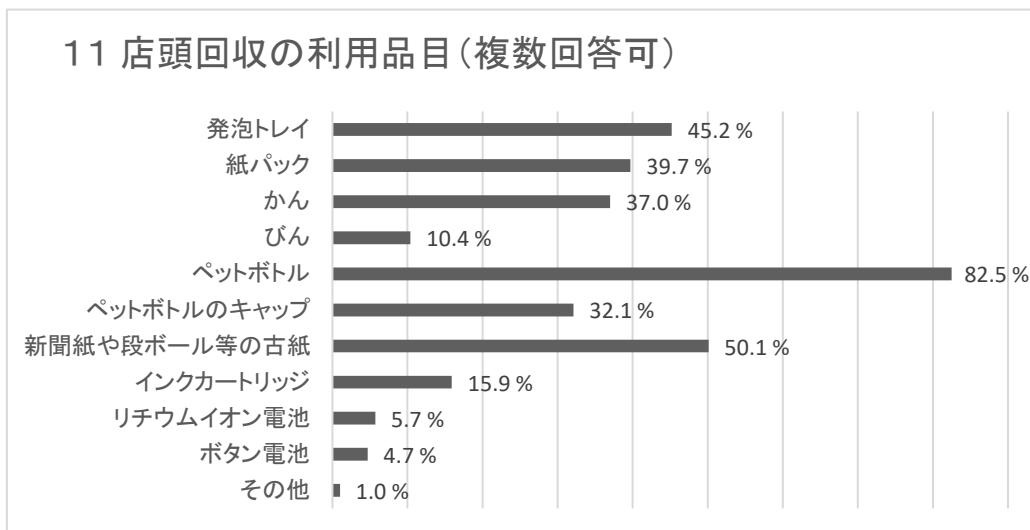
(対象: 店頭回収をよく利用する、たまに利用すると回答した383名)



【利用している品目】

ペットボトルの割合が約8割と突出して高くなっています。一方で、ビンやリチウムイオン電池、ボタン電池については、そもそも回収自体を行っている店舗が少ないということも影響し、利用率が低いという結果となりました。

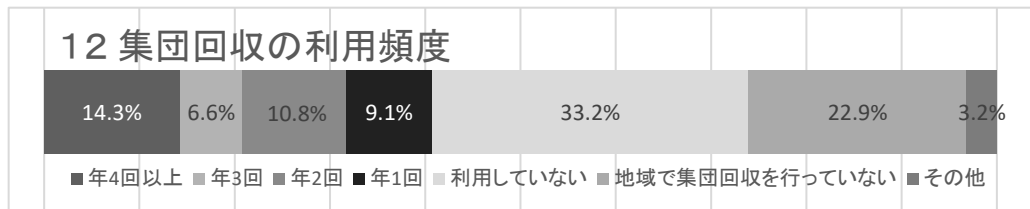
(対象: 店頭回収をよく利用する、たまに利用すると回答した383名)



(5) 集団回収

【利用頻度】

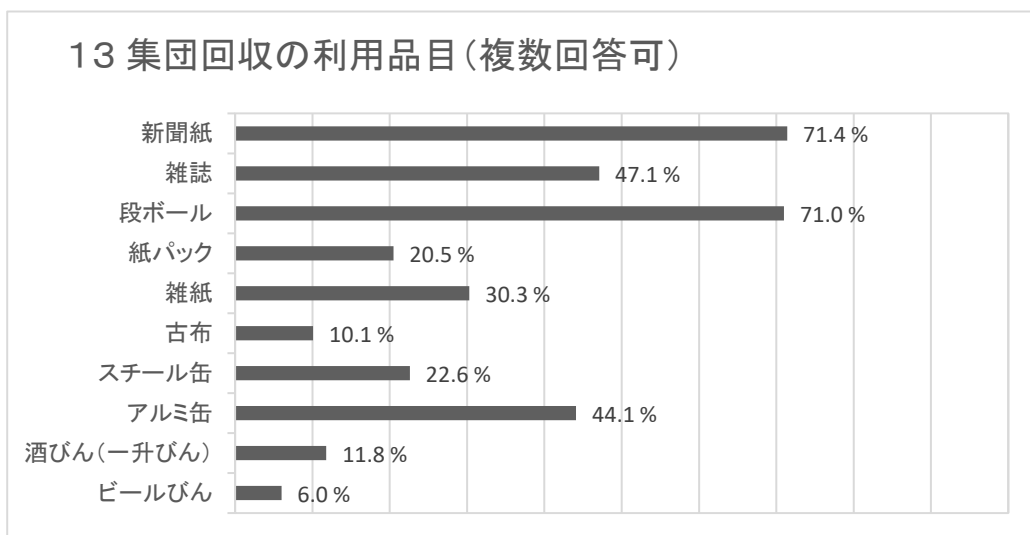
集団回収を年1回以上利用すると回答した割合は、全体の約4割でした。店頭回収の利用者が約5割であることを踏まえると、集団回収の利用率は店頭回収と比較してやや低い結果となりました。



【利用している品目】

集団回収における品目別の利用状況については、新聞紙・段ボールのような古紙類が約7割を占め、他の品目と比較して多く利用されています。次いで雑誌、アルミ缶の順となっており、日常生活で頻繁に排出される資源が、集団回収で主に利用されていることがわかります。

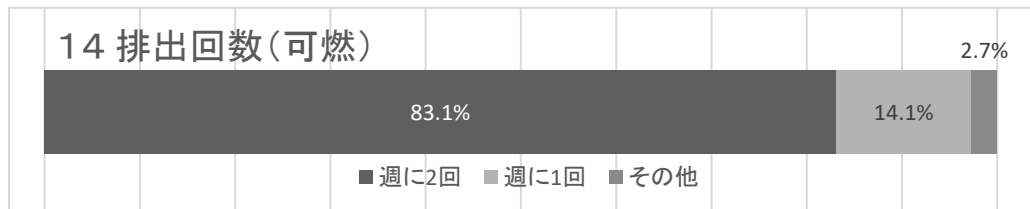
(対象: 集団回収を年1回以上利用すると回答した297名)



(6) 排出回数

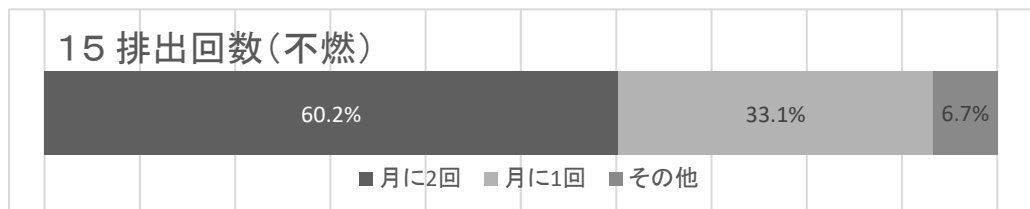
【可燃ごみ】

回答者数の8割以上が週に2回排出していると回答しました。



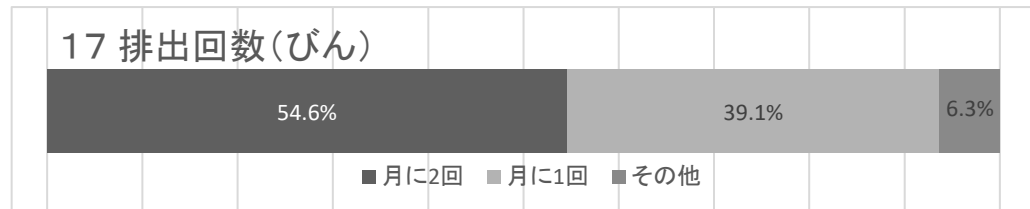
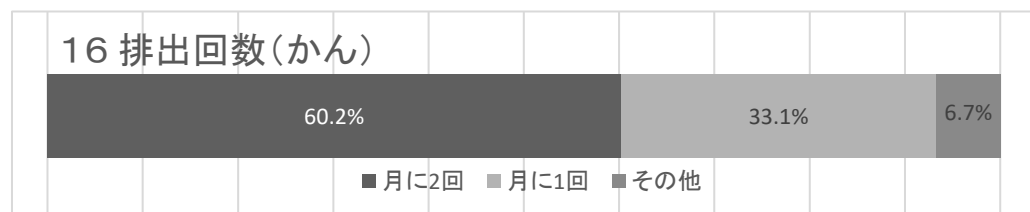
【不燃ごみ】

回答者数の約6割が月に2回排出していると回答しました。



【資源物】

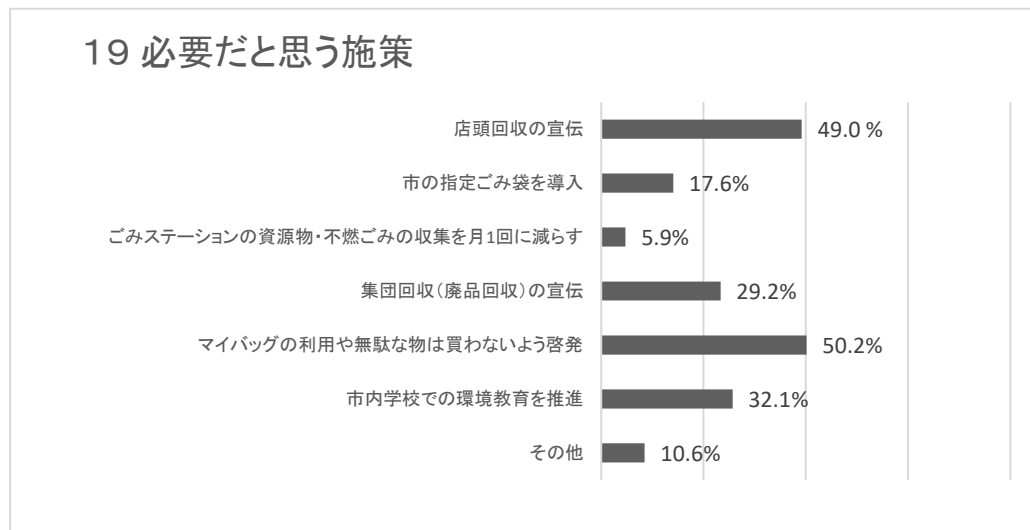
回答者数のうち約6割が3種とも月2回ごみとして排出していることがわかります。
(かん:60%、びん:55%、ペットボトル:63%)



(7)ごみ減量化

【ごみを減らすために必要だと思う施策】

マイバグの利用や無駄な物は買わないよう啓発、店頭回収の宣伝など、日常生活における身近な取り組みに対する啓発を望む声が多く寄せられました。

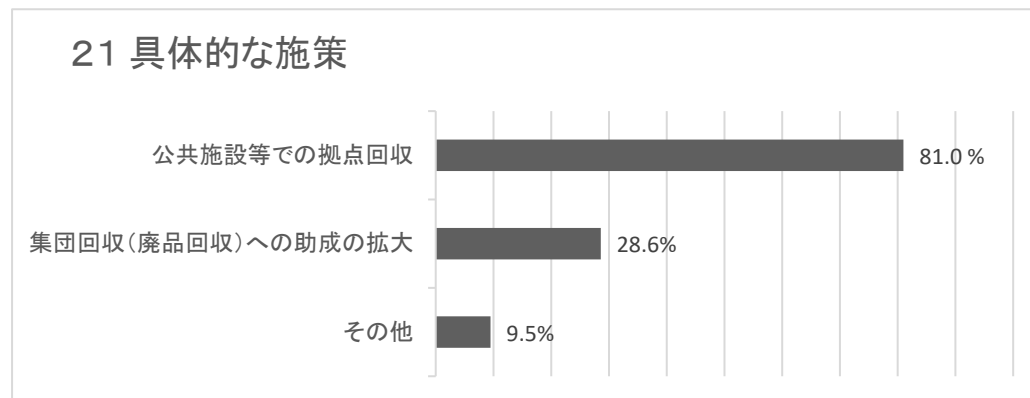
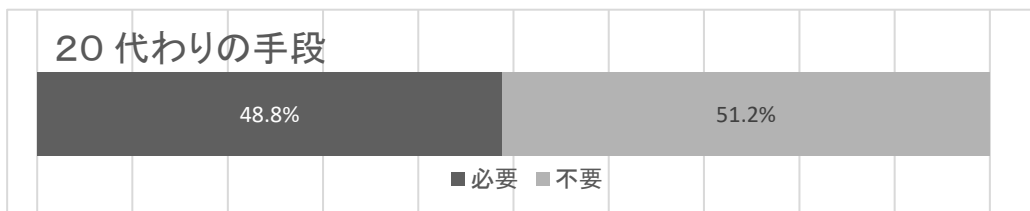


【資源物・不燃ごみの収集を月2回から月1回に減らす場合】

資源・不燃の収集を減らす場合に代わりの手段について、必要と回答した方が21名、不要と回答した方が22名であり、意見が二分する結果となりました。

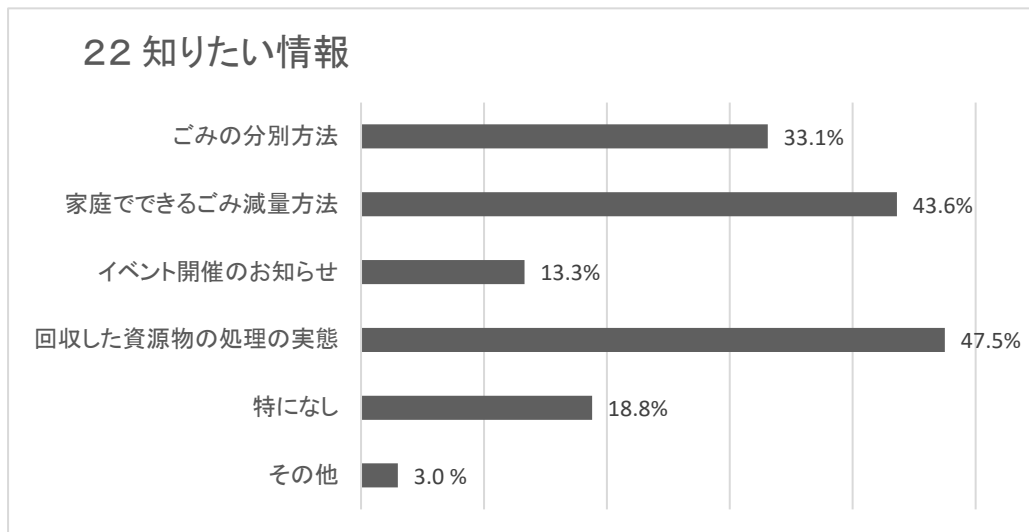
(対象:ごみステーションの資源物・不燃ごみの収集を月1回に減らすと答えた43名)

また、必要と回答した21名のうち、約8割が公共施設等での拠点回収を希望しています。



(8) 知りたいと思っている情報

この回答結果を参考にさせていただき、今後のごみ減量化に関する広報活動を進めていきます。



3.現状分析

アンケート調査で判明したことから、館林市のごみ排出等についての分析を行いました。

(1) ごみ袋についてのアンケートからの分析

袋の大きさ及び一か月の使用枚数の調査結果を見ると、可燃ごみ・プラスチック類のいずれにおいても大きい袋を使っている・使用枚数が多い割合は30代・40代が高い傾向にあります。この年代は子育てをしている世帯が多いため、ごみが増えてしまうと推測されます。そのため、子育てにおいてごみの排出量が減るような支援や政策の検討が重要です。

また、50代以降の年代は小さい袋の割合が高くなっているため、ライフスタイルに合わせた最適な袋サイズが選べるような取り組みを進める必要があります。

(2) 店頭回収・集団回収についてのアンケートからの分析

店頭回収と集団回収について、20代～60代までは店頭回収の利用率の方が高い一方、70代・80代は集団回収の利用率の方が高いという結果となりました。この年代については店頭回収の場所まで資源物を持っていくことが困難であることや、移動手段の確保が難しいため、集団回収の割合の方が高くなっているということが推測されます。

店頭回収・集団回収ともにさらなる周知に加え、店頭回収については利便性の向上や店頭回収に代わるような政策を、集団回収については実施地域の拡大に向けた政策を検討する必要があります。

(3) ごみの排出回数・減量化についてのアンケートからの分析

可燃ごみについては8割以上の方が週2回排出しており、資源物においても月に2回排出しているという回答が最も多い結果となりました。ごみ減量化において必要だと思う政策の回答の中でも「ごみステーションの資源物・不燃ごみの収集を月1回に減らす」が最も低くなっていることから、現在の収集体制が定着しているということがうかがえます。

また、必要な施策について、店頭回収やマイバッグ等の啓発に加え、教育機関と連携して環境教育を推進し、次世代を担う子どもたちへの働きかけも強化していく必要があります。